

# 山口県 橋梁点検要領（案）

## 付録－２

### 基礎データ入力表作成マニュアル（案）

平成 27 年 3 月

山口県土木建築部道路整備課

# 橋梁基礎データ入力表作成マニュアル

基礎データ入力表の作成の目的は橋梁データベース構築に必要な橋梁に関する基本的な諸元を収集することにある

ここで扱う橋梁とは河川、湖沼、海峡、運河などの水面を越えるため、あるいは水のない谷、凹地または、建築物や他の交通路等を越えるために桁下に空間を残し、架設される道路構造物で橋長 2.0m 以上のものをいう。(出典：道路施設現況調査提供)

## 1 橋梁に関する基準、資料

橋梁に橋梁 I D 付す際には、下記の基準、資料を参照する。

### (1) 橋梁マスタ

橋長 2.0m 以上の橋梁を各土木建築事務所及び各路線毎にまとめた一覧表

### (2) 橋梁コード一覧表

橋長 2.0m 以上の橋梁を橋梁 I D 順に並べたもの

橋梁コードが一般国道、主要地方道、一般県道の順に並んでいるか確認。

橋梁コードの空き番号を確認する。

### (3) 重要構造物の修正作業(山口県土木建築部道路整備課)

道路台帳における重要構造物の表示基準、

橋梁に関しては、定義、数え方、橋梁 I D の付し方、道路台帳上の表示について記載。

## 2 基本事項

### (1) 基本データ入力表のバージョン

最新バージョンは 2014 年 3 月版→「Ver. 2014. 3」とバージョン名が右下に記載されている。

### (2) 橋梁 ID

橋梁 ID は路政班管理の橋梁マスタ及び、整備班管理の橋梁マスタと整合を取っている。新規の橋梁 ID は、整備班が管理する橋梁コード一覧表にて番号を付与する。

### (3) 西暦と和暦

橋梁データの整理では原則西暦を用いる。

### (4) 橋梁台帳との整合

基礎データの更新に伴い橋梁台帳のデータも変更される様式を使用する。

これにより作成された橋梁台帳であればデータベースへの自動取込が可能。(写真 JPG、図面 SFC で個別に取込。)

### (5) 道路台帳との整合

道路台帳に橋梁 ID を付して記載してある橋梁は、基礎データ入力表を作成しなければならない。

### (6) 入力文字

数字(路線番号、年月等)は全て半角入力。

(7) データは次の単位で作成する

橋梁マスタで、橋梁 I D が添付された橋梁毎に 1 橋単位で作成する。

橋梁が 1 橋において上下線等、分離されて架橋されている場合は分離されている橋梁毎に 1 橋として扱う。上下線等、分離されて架橋されている橋梁とは、車道橋（上り, 下り）、側道歩道橋（上り, 下り）、側道（上り, 下り）である。

橋梁 I D		橋梁 I D	
〇〇〇〇-0	側道橋、上下線等分離して	〇〇〇〇-7	拡幅部等を付帯構造物として取り扱う。 （1 橋としては取り扱わない。）
〇〇〇〇-1	架橋されている橋梁毎を 1	〇〇〇〇-8	
〇〇〇〇-2	橋として取り扱う。		
〇〇〇〇-3			
〇〇〇〇-4	（設定なし）	〇〇〇〇-9	（設定なし）
〇〇〇〇-5	跨道（横断）橋を取り扱う		
〇〇〇〇-6	高架橋の構造形式単位に分割し取り扱う。		

### 3 入力方法

#### (1) 点検者

以下の事項を入力する。

点検の別： (委), (職)

会社名： ○○○○ 全角 4 文字

点検者： ○○・○○ 苗字を全角 6 文字以内

例】(委)●●建設 中村・長松

(職) ○○・○○

#### (2) 点検年月日

最新の点検年月日を西暦で記入する。

例】

2015	年	6	月	20	日
------	---	---	---	----	---

#### (3) 管理事務所

以下のリストより該当する管理事務所を選択する。なお、管理事務所を選択した際に事務所コードは自動入力される。

事務所コード	管理事務所
1	柳井土建（大島分室）
2	岩国土建
3	岩国土建（玖珂分室）
4	柳井土建
5	周南土建
6	防府土建
7	防府土建（山口支所）
8	防府土建（阿東分室）
9	宇部土建
10	宇部土建（美祢支所）
11	下関土建
12	下関土建（豊田分室）
13	長門土建
14	萩土建

(4)所在地

住所は市町名から3段階程度まで入力する。

例】〇〇市△△××

(5)緯度

世界測地系に基づき緯度を入力する。

例】

〇〇	度	〇〇	分	〇〇.〇〇	秒
----	---	----	---	-------	---

(0 値を入力(5 秒ではなく 05 秒))

(6)経度

世界測地系に基づき経度を入力する。

例】

〇〇	度	〇〇	分	〇〇.〇〇	秒
----	---	----	---	-------	---

(0 値を入力(5 秒ではなく 05 秒))

(7)フリガナ

橋名をカタカナで入力する(半角)。橋梁マスタを参照する。

(8)橋梁名

橋名入力する。橋梁マスタを参照する。

拡幅等の枝番 7, 8, 9 の場合は、〇〇橋(〇〇線)拡幅、〇〇橋側道橋拡幅と名称を付ける。

上り・下りの別

(9)路線種別

以下のリストより該当する路線種別を選択する。

路線種別
一般国道
主要地方道
一般県道

(10) 路線名

路線名一覧表(表1 P35~39)のリストより該当する路線を選択する。

(11)架設年月

架設した年月を西暦で入力する。ただし、架設年月が正確なものは月まで、想定は年までを入力する。

例】

2015	年	6	月	20	日
------	---	---	---	----	---

(12)主要工作物 No

道路整備課の橋梁コード一覧表に基づき、主要工作物 No を入力する。

(13)路線コード

(10)路線名を選択した際、路線コードは自動入力される。

(14)道路台帳相対位置

道路台帳の図面番号と道路台帳附図の中心線の起点側の端から橋梁までの距離を入力する。

(15)施設番号

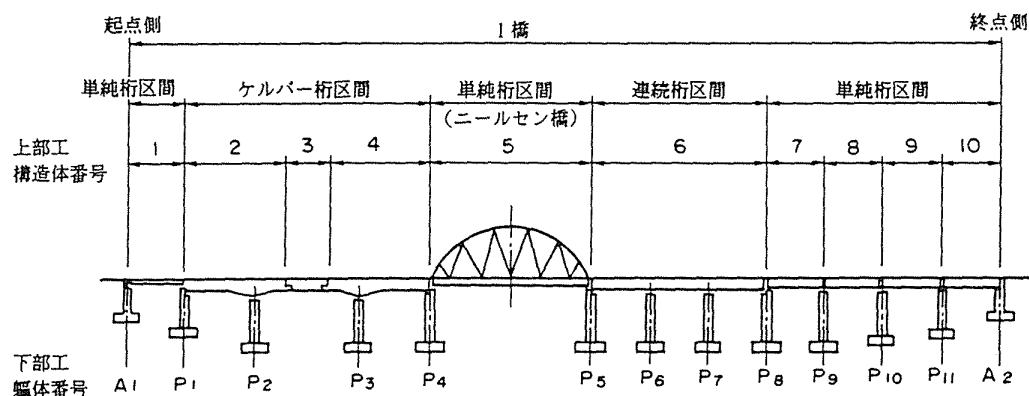
各管理事務所や市町における路線単位で、起点側から終点へ設定した番号（最大 5 桁）を入力する。

(16)橋長(m)

橋梁全体の長さを小数点以下第 1 位まで入力する（小数点第 2 位を四捨五入）。

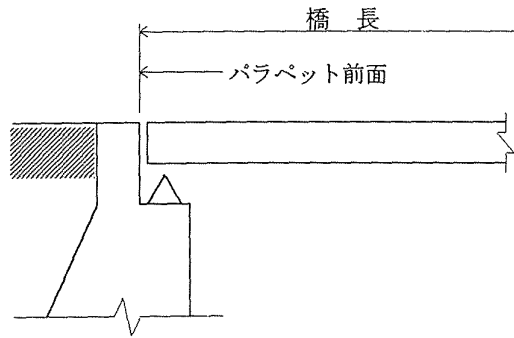
道路台帳及び、橋梁マスタと整合する。

下図のように複数の構造形式からなる場合では、全体の延長を入力する。



(平成 8 年度道路防災総合点検要領〔地震〕より)

橋台間のパラペット前面からの距離を橋長とするが、高架橋で複数の道路管理者にまたがって存在する場合は、管理区分に従い 1 道路管理者ごとに 1 データとして作成する。



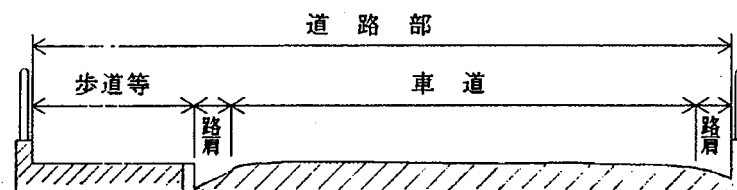
(平成 8 年度道路防災総合点検要領〔地震〕より)

(17) 径間数

対象となる橋梁を構成している径間数を入力する。

(18) 橋面積 (m<sup>2</sup>)

橋面積 (地覆の内側間 (道路部) × 橋長) を小数点以下第 1 位まで入力する (小数点第 2 位を四捨五入)。



(道路施設基本データ作成入力書式マニュアル (中国地方整備局版 H20. 10) より)

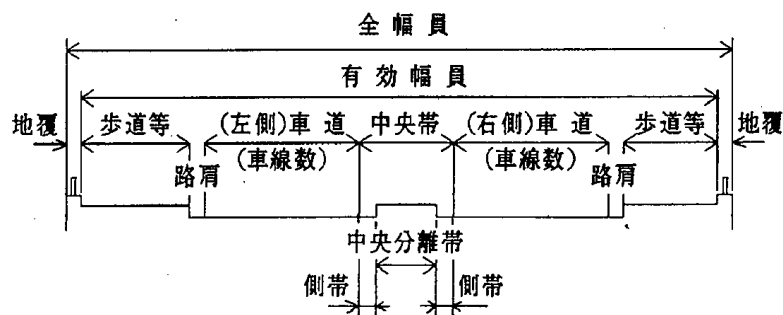
(19) 車線数

車線数を入力する。ただし、橋梁の延長割合で多く占める車線数を入力する。

例】片側 2 車線の道路に付加車線がある橋梁であれば、付加車線延長が付加車線無し区間の延長より長いと 3 車線と入力する。

● 幅員構成

(20) ~ (28) は以下の図を参照し、対応する長さを入力する。

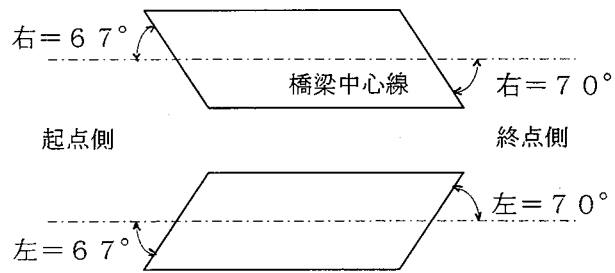


(道路施設基本データ作成入力書式マニュアル (中国地方整備局版 H20. 10) より)

(29) (30) 斜角

支承線に斜角のつく場合、起点側及び終点側の支承線の角度（度）と橋梁中心線との交点を入力する。（下図を参照）台帳等で詳細の角度が分かる場合は秒まで、現地にて簡易分度器で測った場合は度までを入力する。

例】



斜角左の場合：（起点側）左 67°，（終点側）左 70°

斜角がない（90°）の場合：90°

（平成 8 年度道路防災総合点検要領〔地震〕より）

(31) 海岸線区分

管内図、道路地図等を参照し、以下のリストより海岸から橋梁まで概ねの距離を選択する。

海岸線区分
50m 以内
51～200m
201m～1km
1km 超

(32) 緊急輸送路

緊急輸送道路ネットワーク計画図より確認し、以下のリストから選択する。

緊急輸送路
第 1 次緊急輸送路
第 2 次緊急輸送路
第 3 次緊急輸送路
該当なし



(33) 大型車対応路線

管内図、道路地図等より 25t 以上の大型車対応か確認し、該当箇所をチェックする。

(34) バス路線

バス路線を確認し、該当箇所をチェックする。

(35) 迂回路

H8 防災総点検より迂回路の有無を確認し、該当箇所をチェックする。

例】3 種 5 級相当（有効幅員  $W=4.0\text{m}$  以上）の道路であり、迂回によるロス時間が概ね 10 分以内（時速  $30\text{km/h}$  で約  $5\text{km}$ ）であれば迂回路と該当。

(36) DID 地区

DID 地区か確認し、該当箇所をチェックする。

● センサス交通量

(37) 小型車

小型自動車の合計を入力する。

(38) 大型車

大型自動車の合計を入力する。

(39) センサス No

最新のセンサス No を入力する。

(40) 架替理由

「老朽化」「耐震化」「幅員増」「耐荷力増」「河川条件」等のキーワードを使って理由を入力する。旧橋梁の架設年次が分かれば入力しておく。

#### (41)設計示方書

設計示方書一覧表（表 2 P40～42）のリストより設計示方書を選択する。

資料等で分からない場合は、以下を参考に推定する。

##### (41.1) 基準の変遷等、設計・施工時期から見た着眼点

道路橋の技術基準は、その時期の道路橋に要求される性能と技術レベルに応じて時代毎に変遷している。これらの基準の変遷を十分に把握しておくことは、橋梁の建設当時の設計や施工に関する理解を深め、損傷要因の推定や対策の検討を行う上で役立つとともに、点検時の損傷の見過ごし防止にも役立つものである。そのため、建設当時の設計や施工時期から見た着眼点を踏まえ点検することが重要である。

技術基準の変遷の詳細は、「道路橋示方書・同解説Ⅰ共通編」（日本道路協会）、「道路橋補修・補強事例集（2009年版）」（日本道路協会）、「保全技術者のための橋梁構造の基礎知識」（多田宏行著書）など関係技術資料を参照することとして、その要点を概略整理している。

橋梁点検前に橋梁台帳、橋梁管理カルテ等で橋梁の基本諸元を確認し点検を行うこととなるが、橋梁の設計・施工された時代背景や基準を踏まえ、損傷の「見過ごし」がないよう点検に努められたい。

主だった技術基準の変遷と年代別着眼点を表41.1(1)に示す。

表41.1(1) 主だった技術基準の変遷と年代別着眼点

年代別の主な着眼点(橋の弱点)

西暦	技術基準等	鋼構造物	コンクリート構造物
2010年			
2007年			
2004年			
2001年			[2000]以前に設計・施工されたRC床版のVカット型水切り部の剥離・鉄筋露出
1998年			
1995年	[1995通達]橋面全面防水	[1995]以前に設計・施工された橋梁の床版の劣化損傷(漏水・遊離石灰etc)	
1992年	[1993改訂]道示Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ・設計荷重 A・B活荷重: 25tf		
1989年			
1986年	[1986通達]建設省通達 ・塩分総量規制 ・アル骨暫定対策		[1986]以前に建設された橋梁の塩害・アル骨による損傷
1983年			
1980年	[1980改訂]道示Ⅰ、Ⅱ ・高力ボルトF11削除		
1977年			
1974年	[1975]硫黄量の脱硫技術確立	[1966-1980] F11Tボルトの脱落 ※1966年にF11Tが制定された	[1970]以前のプレテン [1968]以前のボーステン T桁の間詰め部コンクリートの落下
1971年	[1972制定]道示Ⅰ、Ⅱ		
1968年	[1967通達]RC床版の配力鉄筋 ・配力鉄筋量: 主鉄筋の70% ・最小全厚: 14cm	[1967]以前に設計・施工されたRC床版の床版ひびわれ	
1965年			
1962年	[1964制定]下部構造指針 ・具体的な計算法の導入	[1956-1972]に設計・施工された溶接橋の亀裂 [1975]以前に溶接補修補強された橋梁の亀裂	[1964]以前に設計・施工された杭基礎の変位
1959年	たわみ制限が緩和された期間		
1956年	[1956改訂]鋼道示 ・設計荷重 1等橋: 20tf 2等橋: 14tf		[1953]以前に設計・施工されたケーソン基礎の変位
1953年	[1953]ケーソン基礎の設計に池原・横山式的设计計算方が復及		
1950年			
1947年			
1943年			
1939年	[1939制定]鋼道示案 ・設計荷重 1等橋: 13tf 2等橋: 9tf		
1936年		【補足Ⅰ】 [1971]以前の箱桁内は継手からの漏水が問題 →箱桁内の腐食 [1988]以前の鋼製フィンガージョイントを使用している橋梁は、排水型のジョイントを採用 →排水樋の腐食	【補足Ⅱ】 [1968]以前に施工されたボースT桁で継目が斜めの横桁 →継目部の損傷 [1979]以前の設計および[1993]以前の設計で桁長27m以下のボースT桁はPC鋼材を上縁定着を採用 →舗装の異常
1932年			
1929年			
1925年	[1926規定]道橋の細則案 ・設計荷重 1等橋: 12tf 2等橋: 8tf 3等橋: 6tf		
1921年			

#### (41.1.1) 橋梁の設計基準の変遷と着眼点

##### (1) 設計荷重の変遷と着眼点

車両の大型化、社会的要請等を踏まえ設計荷重は見直されてきている。しかし、平成5年以前の基準を適用した橋梁全てについて補強（25tf 対応）していないため、補修・補強履歴を確認し、25tf 対応未実施橋梁は、疲労による亀裂、ひびわれ等に着眼して点検するとよい。

以下に、主だった設計荷重の変遷を示し、表 41.1.1(1)に整理しているので参照されたい。

##### ・ 1886 年（明治 19 年）：国県道の築造標準

道路構造に関する我が国で初めての基準として制定された。活荷重は車道・歩道の区分がなく群衆荷重  $450\text{kgf/m}^2$  と規定された。

##### ・ 1926 年（大正 15 年）：道路構造に関する細則案

最大活荷重は、一等橋で自動車荷重 12tf、転圧機荷重 14tf、群衆荷重の車道と歩道はそれぞれ  $600\text{kgf/m}^2$ 、 $500\text{kgf/m}^2$  と、規定された。

##### ・ 1939 年（昭和 14 年）：鋼道路橋設計示方書案

今日の道路橋示方書の基礎となったもの。最大活荷重は、一等橋で自動車荷重 13tf、転圧機荷重 17tf、群衆荷重が等分布荷重という名称に変わり、車道・歩道とも  $500\text{kgf/m}^2$  と規定された。

##### ・ 1956 年（昭和 31 年）：鋼道路橋示方書

道路法の改定と戦後の交通量増大を背景に改訂された。活荷重は床および床組の設計のための T 荷重と主桁の設計のための L 荷重、歩道設計のための群衆荷重を設定した。最大活荷重は、一等橋で T 荷重として自動車荷重 20tf、L 荷重として線荷重  $5\text{tf/m}$ 、等分布荷重  $350\text{gf/m}^2$  と規定された。

##### ・ 1973 年（昭和 48 年）：特定の路線にかかる橋・高架橋の道路等の技術基準について

湾岸道路や高速自動車国道、これらと一体で機能する幹線的な道路に対して、重量 43tf のトレーラー荷重として TT-43 荷重が規定された。

##### ・ 1993 年（平成 5 年）：道路橋示方書 I 共通編

車両の大型化への対応を受け、道路構造令の改訂により 設計自動車荷重が一律 25tf になった。これを受け、一等橋などの橋の区分をなくし、25tf の大型車の走行頻度が比較的低い状況を想定した A 活荷重と比較的高い状態を想定した B 活荷重が規定された。B 活荷重は従来の TT-43 荷重を包括している。

表 41.1.1(1) 橋梁の設計荷重の変遷

区分	大正 15 年(1926 年)	昭和 14 年(1939 年)	昭和 31 年(1956 年)	平成 5 年(1993 年)
1 等橋	12tf (600kgf/m <sup>2</sup> )	13tf (500kgf/m <sup>2</sup> )	20tf (350kgf/m <sup>2</sup> )	等級の廃止 25tf (350kgf/m <sup>2</sup> ) 但し交通状況に 応じて A・B 活荷重に 区分
2 等橋	8tf	9tf	14tf	
3 等橋	6tf	—	—	

注) 枠内の数値は車両 T 荷重、( ) 内は等分布荷重を示す。

注) 道示の 25tf への改訂は、平成 5 年 11 月 25 日の道路構造令第 35 条の設計自動車荷重の改正を受けて定めたものである。

#### (42) 橋格

以下のリストより橋格を選択する。

資料及び現地確認で分からない場合は、表 41.1.1(1) 参考に推定する。

橋格
1 等
2 等
3 等
不明

#### (43) 設計荷重

以下のリストより設計荷重を選択する。

資料及び現地確認で分からない場合は、表 41.1.1(1) 参考に推定する。

設計荷重
9t
13t
14t
20t
A 活荷重
B 活荷重
不明

(44) 添加物件

添加物の有無を選択し、括弧に添加物, 管理者等を入力する。

不明なものは、その他(不明)と入力する。

例】水道（下関市水道局）、電気(中国電力山口営業所)、通信(NTT 西日本山口営業所)、等

(45) 交差区分・交差物件

橋梁に交差する物件を以下のリストから選択し、括弧に詳細を入力する。

例】河川：〇〇河川〇〇川、鉄道：〇〇線、高速道路：〇〇道(山陽道, 中国道)、一般道：正式名称、を記入

交差区分・交差物件
川
海
航路
鉄道
高速道路
一般道
谷
湖沼
歩道、駐車場など
その他

●伸縮装置

(46) 箇所数

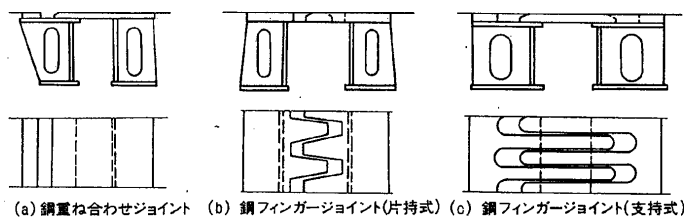
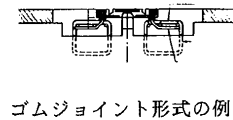
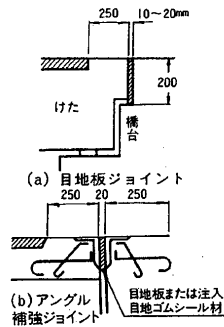
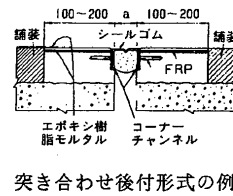
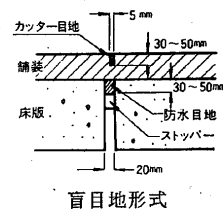
伸縮装置の箇所数を入力する。

(47) 種類

以下のリストより伸縮装置の種類を選択する。

伸縮装置の種類
ノージョイント
鋼製ジョイント
ゴムジョイント
突き合わせ後付けジョイント
目地
その他
不明

参考図】



(道路施設基本データ作成入力書式マニュアル (中国地方整備局版 H20.10) より)

●防護柵(車道部、歩道部)

(48) (50) 高さ

舗装面からの高さを、小数点以下第 1 位まで入力する (第 2 位を四捨五入)。

(49) (51) 材質

以下のリストより防護柵の材質を選択する。

防護柵の材質
なし
木製
コンクリート製
ガードレール
アルミニウム製
鋳製
鋼製
その他

(52) 塗装年月 (西暦)

塗装履歴より塗装年月を確認し、西暦で入力する。

(53) 一般外面上塗塗料種類

塗装履歴より一般外面上塗塗料種類を確認し入力する。

(54) 一般外面中塗塗料種類

塗装履歴より一般外面中塗塗料種類を確認し入力する。

(55) 一般外面下塗塗料種類

塗装履歴より一般外面下塗塗料種類を確認し入力する。



(56) 一般外面塗装塗装系

塗装履歴より一般外面塗装塗装系を確認し、以下のリストから選択する。

一般外面塗装 塗装系	
A-1（新設塗装系）	b-1（塗替塗装系）
A-2（新設塗装系）	c-1（塗替塗装系）
A-3（新設塗装系）	c-3（塗替塗装系）
A-4（新設塗装系）	c-5（塗替塗装系）
A-5（新設塗装系）	c-6（塗替塗装系）
B-1（新設塗装系）	Rc-Ⅰ（塗替塗装系）
C-1（新設塗装系）	RC-Ⅱ（塗替塗装系）
C-2（新設塗装系）	Rc-Ⅲ（塗替塗装系）
C-3（新設塗装系）	Rc-Ⅳ（塗替塗装系）
C-4（新設塗装系）	Ra-Ⅲ（塗替塗装系）
C-5（新設塗装系）	Rd-Ⅲ（塗替塗装系）
C-6（新設塗装系）	Rzc-Ⅰ（塗替塗装系）
a-1（塗替塗装系）	不明
a-3（塗替塗装系）	その他

(57) 箱桁等内面塗装塗装系

塗装履歴より箱桁等内面塗装塗装系を確認し、以下のリストから選択する。

箱桁等内面塗装 塗装系
D-1（新設塗装系）
D-2（新設塗装系）
D-3（新設塗装系）
D-4（新設塗装系）
d-1（塗替塗装系）
d-2（塗替塗装系）
Rd-Ⅲ（塗替塗装系）
不明
その他

(58) 上部工形式

資料や現地確認より上部工の構造形式を確認し、以下のリストから選択する。

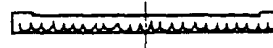
上部工形式		
該当なし	PC 床版橋－その他	アーチ橋－フィレンデール
鋼床版橋	PC 床版橋－プレテン床版	アーチ橋－ニールセン
鋼橋桁橋－I 桁（非合成）	PC 床版橋－中空床版	アーチ橋－アーチ
鋼橋桁橋－I 桁（合成）	PC 床版橋－ポストテン床版	ラーメン橋－その他
鋼橋桁橋－I 桁（鋼床板）	PC 桁橋－プレテンT 桁	ラーメン橋－門型ラーメン
鋼橋桁橋－I 桁（不明）	PC 桁橋－プレテンT 桁（合成）	ラーメン橋－方杖ラーメン
鋼橋桁橋－H 桁（非合成）	PC 桁橋－ポストテンT 桁	ラーメン橋－斜材付π型ラーメン
鋼橋桁橋－H 桁（合成）	PC 桁橋－ポストテンT 桁（合成）	斜張橋－その他
鋼橋桁橋－H 桁（不明）	PC 桁橋－T 桁（その他）	斜張橋－I 桁
鋼橋桁橋－箱桁（非合成）	PC 箱桁橋	斜張橋－箱桁
鋼橋桁橋－箱桁（合成）	桁橋－その他	斜張橋－トラス
鋼橋桁橋－箱桁（鋼床板）	トラス橋－その他	吊り橋－その他
鋼橋桁橋－箱桁（不明）	トラス橋－上路橋	吊り橋－I 桁
RC 床版橋－その他	トラス橋－下路橋	吊り橋－箱桁
RC 床版橋－中実床板	アーチ橋－その他	吊り橋－トラス
RC 床版橋－中空床板	アーチ橋－タイドアーチ	その他
RC 桁－T 桁	アーチ橋－ランガー	その他－石橋（れんが）
RC 桁－箱桁	アーチ橋－ローゼ	その他－木橋
		不明

参考図】

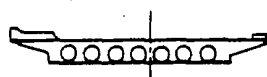
①床版橋



R C 中実床版



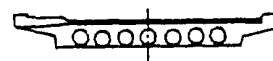
P C プレテン床版



R C 中空床版



P C プレテン中空床版

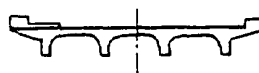


P C ポステン中空床版

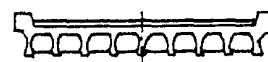
②桁橋



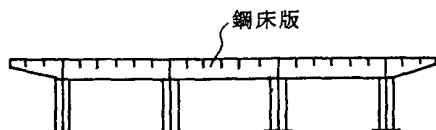
I または H 形鋼橋



R C T 桁



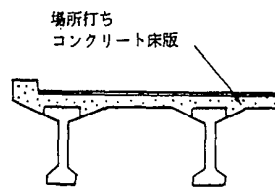
P C プレテン T 桁



I 桁橋 (鋼床版)



P C ポステン T 桁



合成 T げた橋



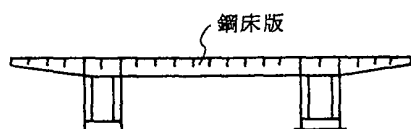
箱 桁 橋



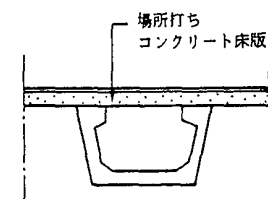
R C 箱桁



P C ポステン箱桁

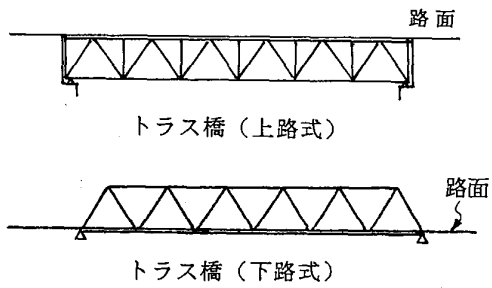


箱桁橋 (鋼床版)

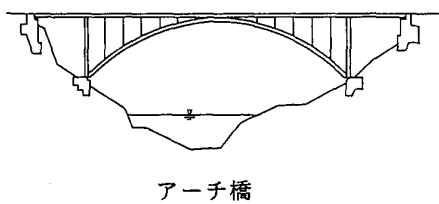
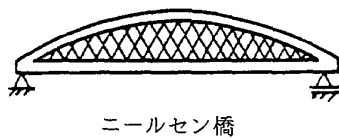
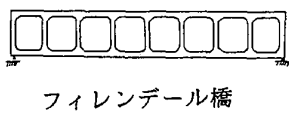
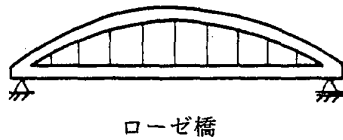
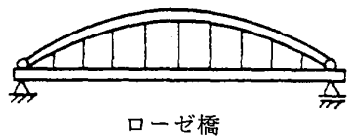
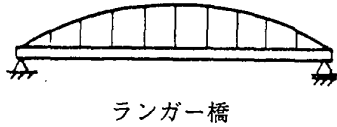
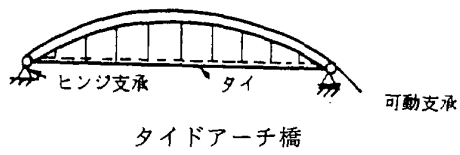


合成箱げた橋

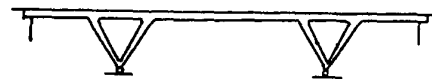
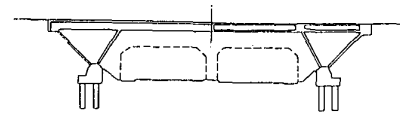
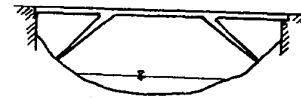
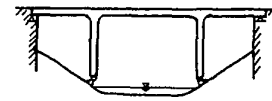
③ トラス橋



④ アーチ系橋



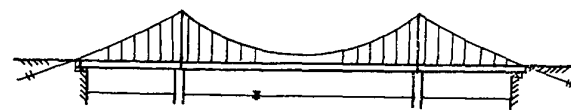
⑤ ラーメン橋



⑥ 斜張橋



⑦ 吊橋



(平成8年度道路防災総合点検要領〔地震〕より)

(59) 支間長 (m)

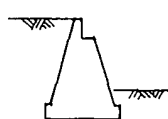
資料や現地確認を行い、支間長を入力する。不明な場合は、橋長を径間数で割った値の小数点以下第 1 位まで入力する（第 2 位を四捨五入）。

(60) 下部工形式

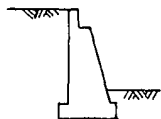
資料や現地確認より、下部工の構造形式を以下のリストより選択する。

下部工形式	
空石積_橋台	盛りこぼし式_橋台
練石積_橋台	小橋台_橋台
練石ブロック_橋台	壁式_橋脚
重力式_橋台	柱式_橋脚
逆 T 式_橋台	T 型_橋脚
ラーメン式_橋台・橋脚	I 型_橋脚
半重力式_橋台	パイルベント式_橋脚
箱式_橋台	特殊橋脚_橋脚
控え壁式_橋台	その他
中抜き式_橋台	不明

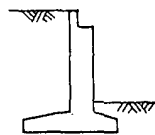
橋台形式



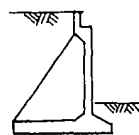
重力式橋台



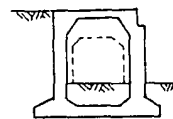
半重力式橋台



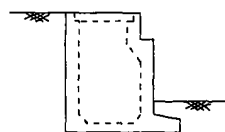
逆T式橋台



控え壁式橋台



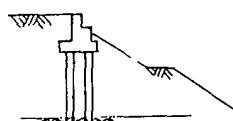
ラーメン橋台



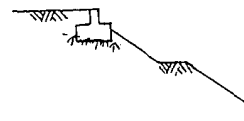
箱式橋台



中抜き橋台

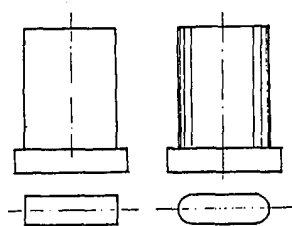


盛りこぼし橋台

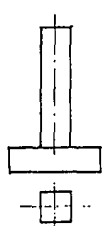


小橋台

橋脚形式



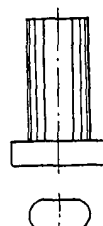
壁式橋脚



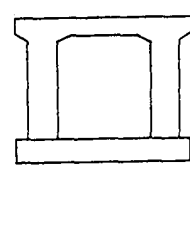
柱橋脚 (1柱角)



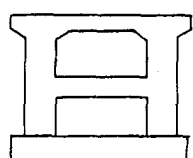
柱橋脚 (1柱円)



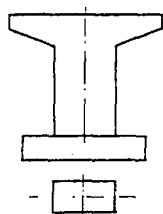
柱橋脚 (1柱小判)



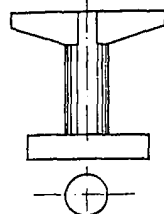
ラーメン橋脚



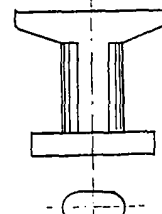
二層ラーメン橋脚



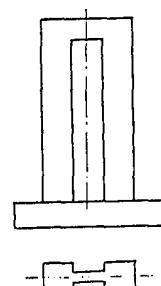
T型橋脚 (柱角柱)



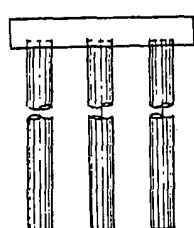
T型橋脚 (柱円柱)



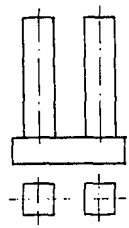
T型橋脚 (1柱小判)



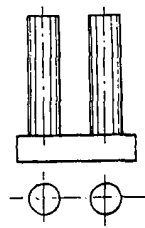
I型橋脚



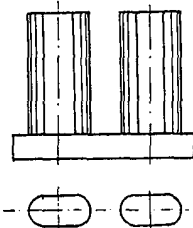
パイルベント橋脚



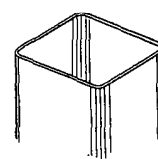
柱橋脚 (2柱角)



柱橋脚 (2柱角)

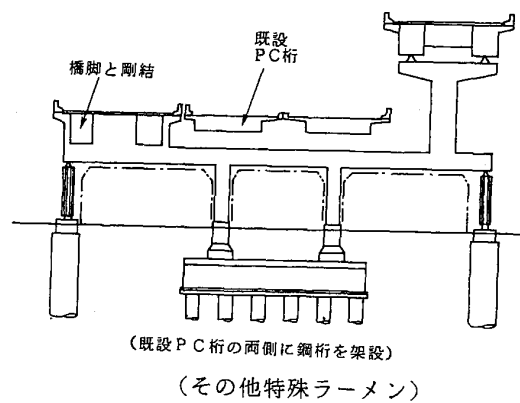
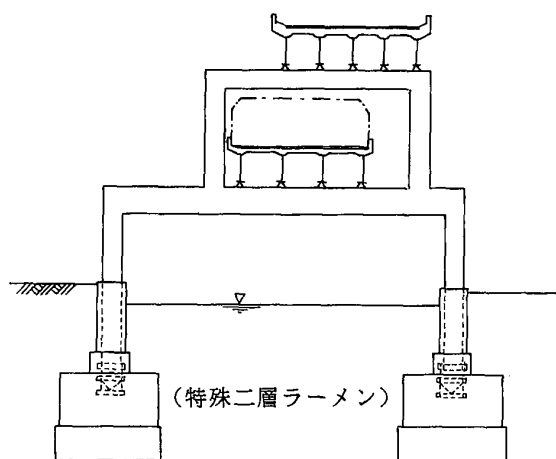
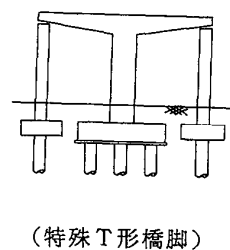
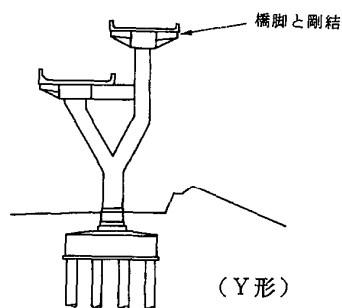
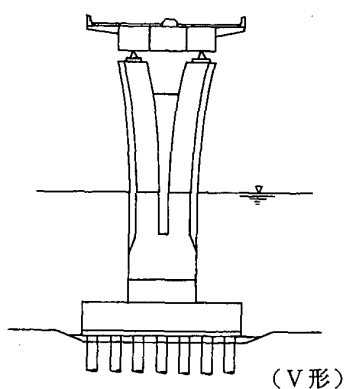
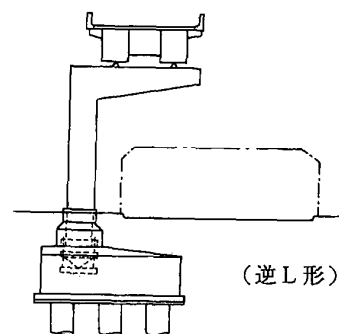
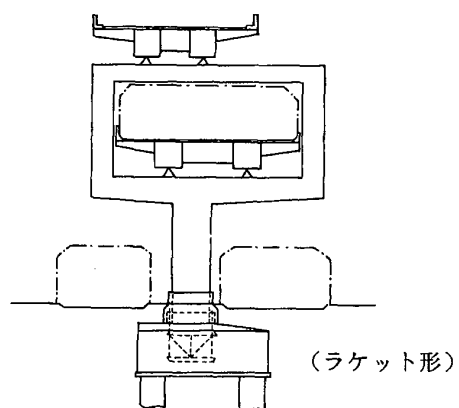


柱橋脚 (2柱小判)

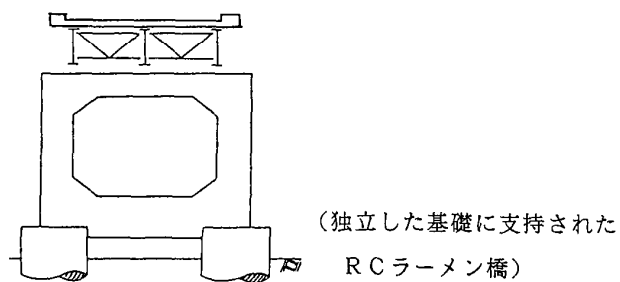


柱角・面取 (鋼製)

※特殊橋脚の例



※独立した基礎に支持されたRCラーメンの例



(平成8年度道路防災総合点検要領〔地震〕より)

(61) 下部工高 (m)

橋座からフーチング接続部までの長さを、小数点以下第1位まで入力する(第2位を四捨五入)。

下図の参考図を参照。

(62) 下部工幅 (m)

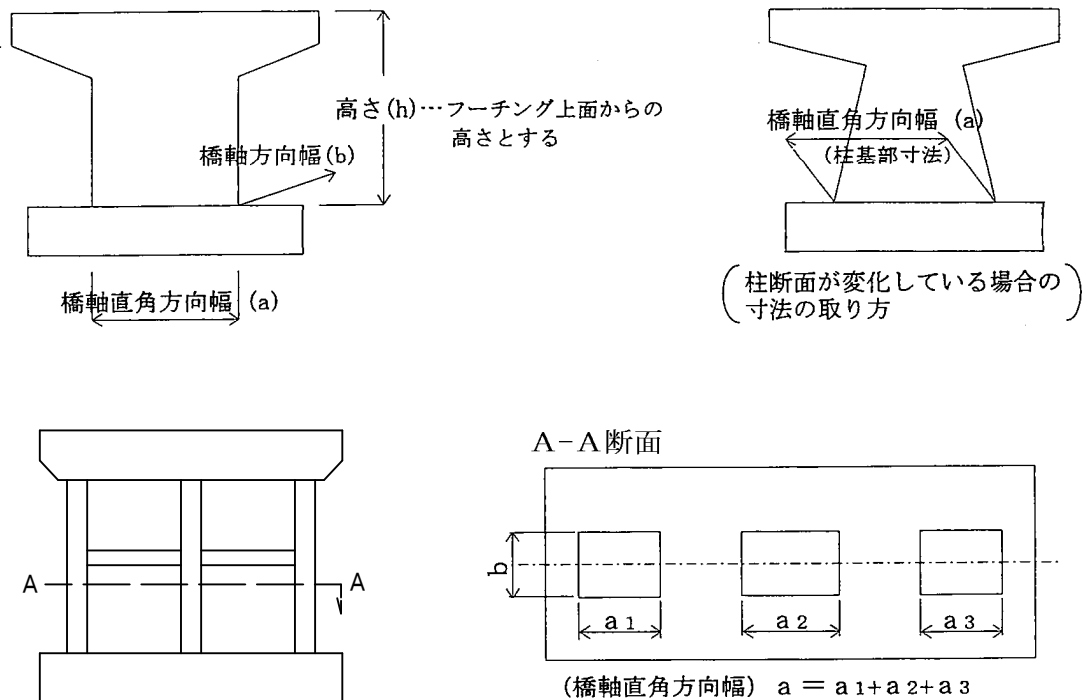
橋軸直角方向の下部工の長さを、小数点以下第1位まで入力する(第2位を四捨五入)。資料や現地確認による記載が無い場合は、上部工の全幅員を入力する。下図の参考図を参照。

(63) 下部工厚 (m)

橋軸方向の下部工の長さを、小数点以下第1位まで入力する(第2位を四捨五入)。資料や現地確認による記載が無い場合は、下部工形式より推測する。下図の参考図を参照。

重力式橋台等の厚さが不均一な場合は、平均厚をとる。

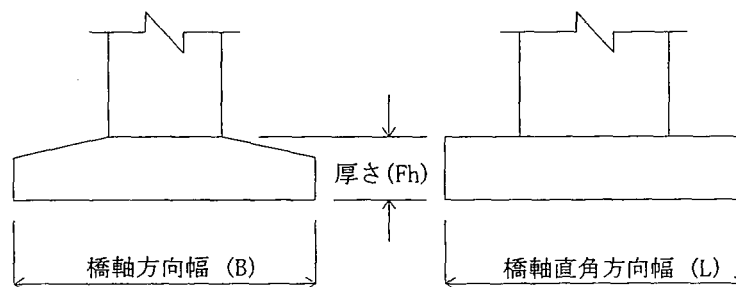
参考図】



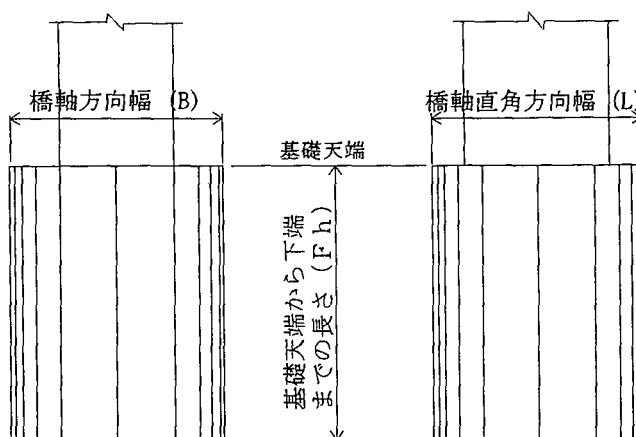
・ 2 柱以上の橋軸直角方向幅 (a)  
は、各柱寸法の合計値を記入する。

(平成 8 年度道路防災総合点検要領〔地震〕より)

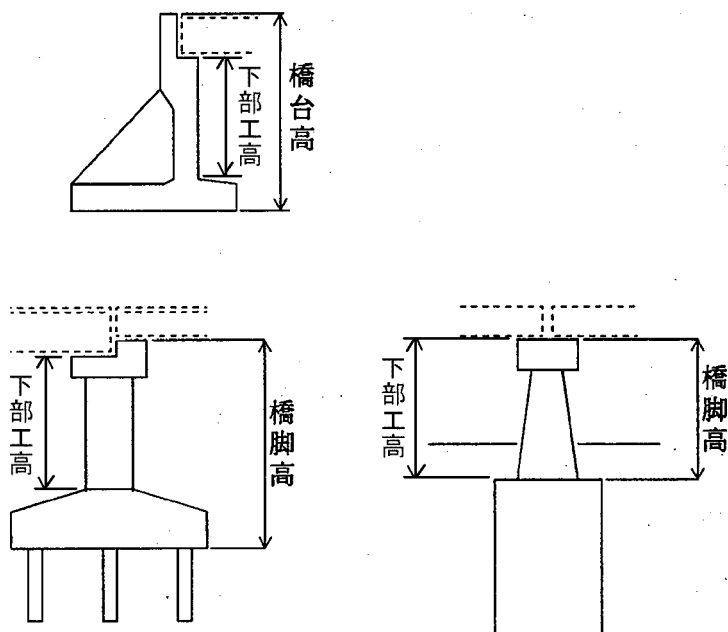




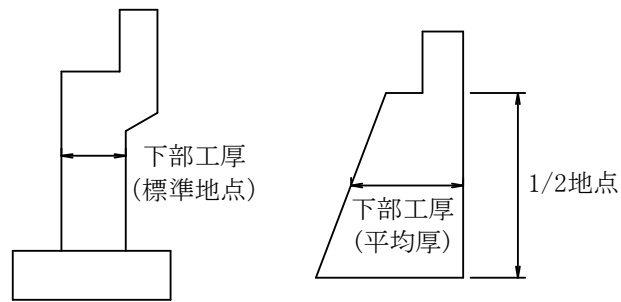
※フーチングのない基礎形式の場合（ケーソン基礎等）



（平成 8 年度道路防災総合点検要領〔地震〕より）



（道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（中国地方整備局版 H20.10）より）



(64) (66) 支承基数

支承の基数を入力する。ただし、連続桁で支承を共有する場合、共有する基数を下部工上の起点側にまとめて入力する（下部工上の終点側には入力しない）。

(65) (67) 支承形式

支承の形式を以下のリストより選択する。下図の参考図を参照。

ただし、連続桁で支承を共有する場合、共有する支承形式を下部工上の起点側にまとめて入力する（下部工上の終点側には入力しない）。

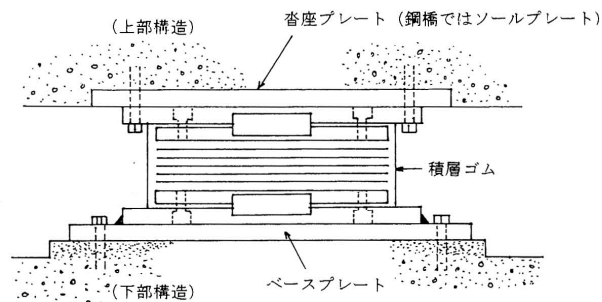
支承形式	
なし	可動支承－線支承
目地板	可動支承－ピボット支承
エラストイト	可動支承－1本ローラー支承
不明	可動支承－複数ローラー支承
線支承	可動支承－ロッカー支承
支承板支承	可動支承－支承板支承
簡易ゴム支承	可動支承－簡易ゴム支承
普通ゴム支承	可動支承－普通ゴム支承
固定支承－不明	免震支承－不明
固定支承－線支承	免震支承－L3
固定支承－ピン支承	免震支承－L2
固定支承－ピボット支承	分散支承－不明
固定支承－コンクリートヒンジ支承	分散支承－ゴム支承
固定支承－支承板支承	ダンパー支承
固定支承－簡易ゴム支承	その他－鋼構造（ラーメン）
固定支承－普通ゴム支承	その他－上部構造が橋脚上で掛け違いである
可動支承－不明	その他－その他

参考図】

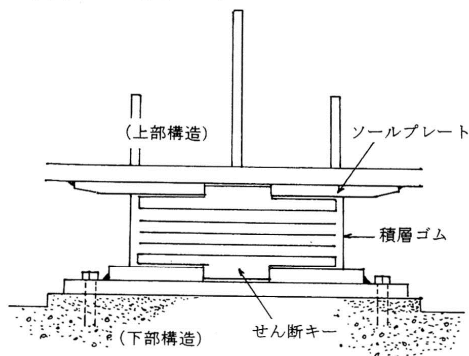
## ① ゴム支承

### ○ ゴム支承の構造例（参考図）

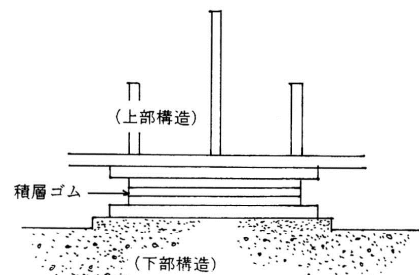
ベースプレートやソールプレートを有し、上下部構造とボルト等で固定されている構造（普通ゴム支承）



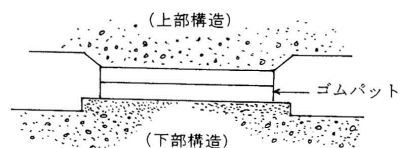
支承を上下部構造に固定せず、せん断キーを装置した構造（簡易ゴム支承）



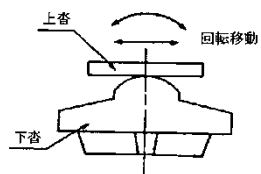
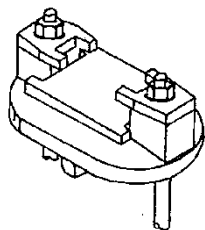
支承を上下部構造に固定せず、積層ゴムを挟んだだけの構造（簡易ゴム支承）



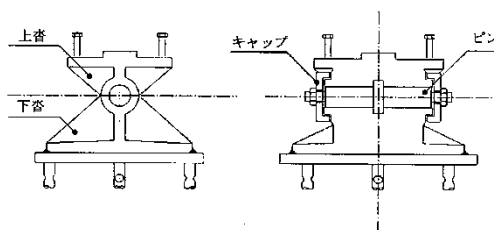
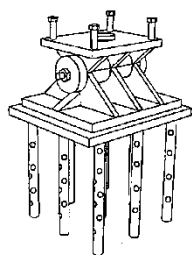
上下部構造の間に、ゴムパットを挟んだだけの構造（簡易ゴム支承）



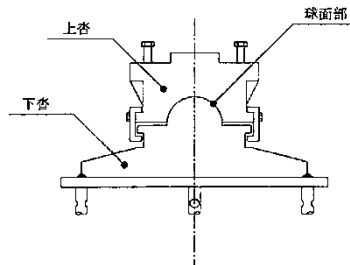
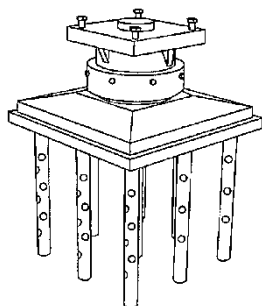
## ②鋼製支承



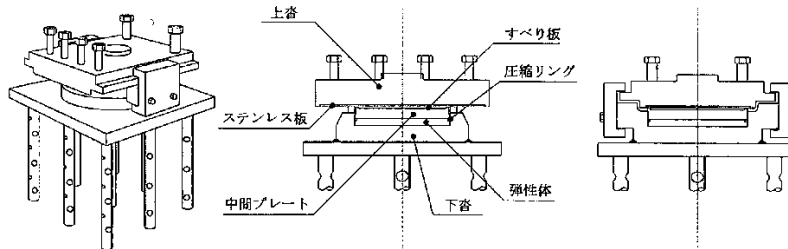
線支承



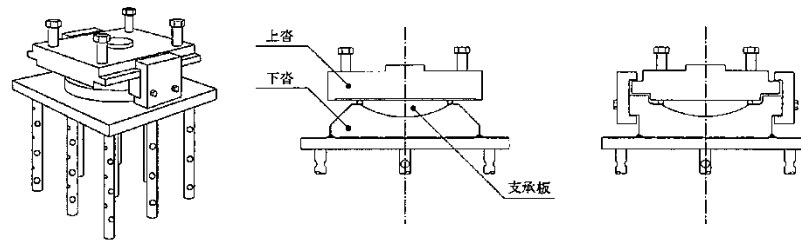
ピン支承



ピボット支承

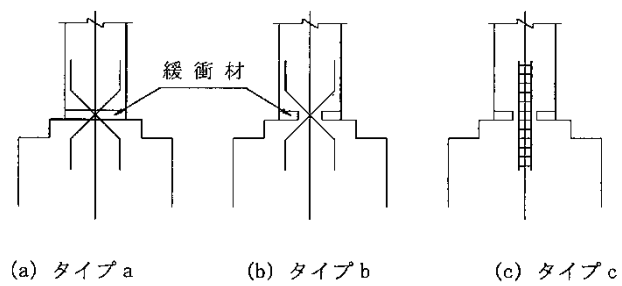


支承板支承（すべり板と弾性体の組合せ）

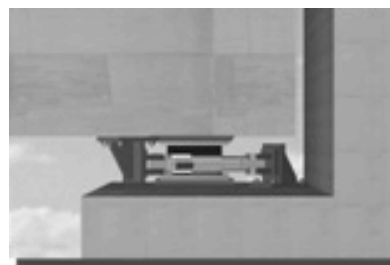
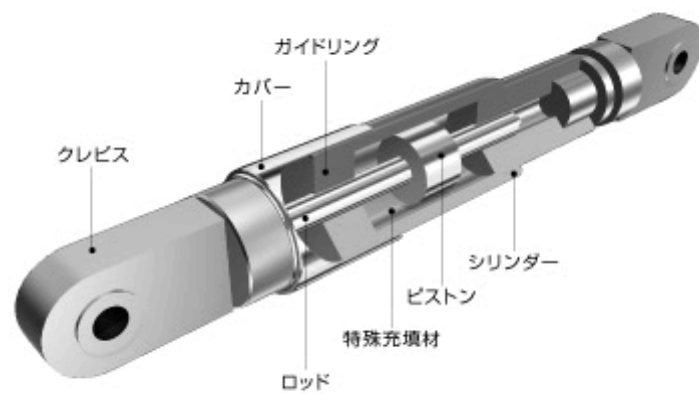


支承板支承（平面と曲面の組合せ）

### ③コンクリートヒンジ支承



### ④ダンパー



ダンパーの取付例

（山口県橋梁点検要領（案）H20.8 山口県土木建築部道路整備課より）

(68) (69) 落橋防止装置形式

以下のリストより落橋防止装置の形式を選択する。

落橋防止装置形式
なし
不明
ピン型形式
鋼棒型式
プレート型式
PC 鋼線型式
チェーン形式
その他

(70) 補修履歴

補修の履歴を入力する。

表 1 路線名一覧表

各路線種別に対応する路線名を以下に示す。

【一般国道】

一般国道路線名
1 8 7 号
1 8 9 号
1 9 1 号
2 6 2 号
3 1 5 号
3 1 6 号
3 7 6 号
4 3 4 号
4 3 5 号
4 3 7 号
4 8 9 号
4 9 0 号
4 9 1 号

【主要地方道】

主要地方道路線名		
(1) 岩国大竹線	(24) 防府徳地線	(52) 徳山港線
(2) 岩国佐伯線	(25) 宇部防府線	(53) 徳山停車場線
(3) 新南陽津和野線	(26) 山口鹿野線	(54) 防府停車場線
(4) 大島環状線	(27) 山口徳山線	(55) 宇部港線
(5) 周東美川線	(28) 小郡三隅線	(56) 仙崎港線
(6) 山口宇部線	(29) 宇部船木線	(57) 下関港線
(7) 柳井周東線	(30) 小野田美東線	(58) 防府環状線
(8) 徳山光線	(31) 美東秋芳西寺線	(59) 岩国錦線
(9) 徳山徳地線	(32) 萩秋芳線	(60) 橘東和線
(10) 山口福栄須佐線	(33) 下関美祢線	(61) 山口小郡秋穂線
(11) 萩篠生線	(34) 下関長門線	(62) 山口旭線
(12) 鹿野吉賀線	(35) 豊浦菊川線	(63) 下松田布施線
(13) 萩津和野線	(36) 秋芳三隅線	(64) 萩三隅線
(14) 益田阿武線	(37) 宇部美祢線	(65) 山陽豊田線
(15) 岩国玖珂線	(38) 美祢油谷線	(66) 長門油谷線
(16) 六日市錦線	(39) 栗野二見線	(67) 萩川上線
(17) 津和野田万川線	(40) 豊浦清末線	(68) 光日積線
(21) 山口防府線	(41) 下松鹿野線	(69) 徳山本郷線
(22) 光柳井線	(50) 岩国停車場線	(70) 柳井玖珂線
(23) 光上関線	(51) 下松停車場線	(71) 小野田山陽線
		(72) 柳井上関線



【一般県道】

一般県道路線名		
(101) 嵩山久賀港線	(139) 三瀬川下松線	(173) 笠戸島線
(103) 大島橋線	(140) 瀬越下松線	(174) 笠戸島公園線
(104) 飯の山公園線	(141) 祖生通津停車場線	(176) 周防花岡停車場線
(106) 文珠山公園線	(142) 久杉高水停車場線	(178) 新南陽停車場線
(108) 地家室白木港線	(143) 周防高森停車場線	(179) 金峰徳山線
(109) 白木山線	(144) 光玖珂線	(180) 鹿野夜市線
(111) 岩国美和線	(146) 室積公園線	(183) 中ノ関港新田線
(112) 藤生停車場錦帯橋線	(149) 柳井由宇線	(184) 三田尻港徳地線
(113) 南岩国停車場磯崎線	(150) 銭壺山公園線	(185) 防府停車場向島線
(114) 新岩国停車場線	(151) 伊陸大島港線	(186) 防府停車場大藪線
(115) 通津周東線	(152) 伊保庄平生線	(187) 高井大道停車場線
(116) 大竹美和線	(153) 木部柳井線	(189) 富海停車場線
(117) 乙瀬小方線	(155) 東浦西浦線	(190) 中ノ関港線
(119) 佐伯錦線	(158) 佐田中田布施線	(192) 串戸田線
(120) 須川六日市線	(159) 束荷一ノ瀬線	(194) 山口秋穂線
(121) 羅漢山公園宇佐郷線	(160) 石城山公園線	(196) 宮野上佐々並線
(122) 大竹和木線	(161) 岩田停車場線	(197) 仁保中郷奈美線
(123) 柿木山口線	(162) 石城山光線	(199) 開作上嘉川停車場線
(124) 津和野須佐線	(163) 別府田布施停車場線	(200) 陶湯田線
(130) 本郷周東線	(164) 平生港田布施線	(201) 宮野上山口停車場線
(131) 本郷五味線	(165) 大野南長迫線	(202) 香山園公園線
(133) 根笠周東線	(166) 八代温見線	(203) 厳島早間田線
(134) 秋掛錦線	(167) 高水停車場線	(204) 宮野大歳線
(135) 北中山岩国線	(168) 勝間停車場線	(205) 山口停車場線
(136) 上久原藤生停車場線	(169) 湯野山畑線	(206) 湯田停車場線
(137) 玖珂停車場線	(170) 杵島櫛ヶ浜停車場線	(208) 四辻停車場線
(138) 周東田布施線	(172) 徳山新南陽線	(212) 山口阿知須宇部線

一般県道路線名		
(213) きらら浜沖の原線	(250) 南風泊港線	(285) 野波瀬港線
(214) 新山口停車場長谷線	(251) 田ノ首下関線	(286) 日置上油谷線
(215) 宇部停車場線	(252) 福浦港金比羅線	(287) 長門三隅線
(216) 善和阿知須線	(253) 小月停車場線	(293) 萩長門峡線
(217) 小野木田線	(254) 長府停車場線	(294) 笠山越ヶ浜線
(219) 西岐波吉見線	(255) 新下関停車場線	(295) 萩城趾線
(220) 宇部空港線	(256) 綾羅木停車場線	(296) 三見停車場三見市線
(222) 小野田停車場線	(257) 安岡停車場線	(299) 萩港線
(223) 小野田港線	(258) 武久棕野線	(300) 宇津本村線
(224) 西万倉山陽線	(259) 新下関停車場稗田線	(302) 福田下宇田線
(225) 船木津布田線	(260) 宇賀山陽線	(303) 福田下惣郷線
(226) 津布田郡線	(261) 豊浦久野線	(304) 江崎停車場線
(227) 厚狭停車場郡線	(262) 豊浦豊田線	(305) 須佐湾高山尾浦線
(228) 厚狭停車場線	(263) 小串停車場線	(306) 弥富小川線
(229) 埴生停車場線	(265) 七見小月線	(307) 佐々並美東線
(230) 伊佐吉部山口線	(266) 日野吉田線	(308) 明木美東線
(231) 美祢小郡線	(267) 中の川於福停車場線	(309) 佐々並町絵美東線
(232) 奥万倉山陽線	(268) 豊田三隅線	(310) 迫田篠目停車場線
(233) 美祢菊川線	(269) 豊田栗野港線	(311) 篠目徳佐下線
(235) 豊田前東厚保線	(270) 田耕湯玉停車場線	(312) 矢代佐々並線
(239) 銭屋美祢線	(272) 滝部停車場線	(314) 徳佐停車場線
(240) 湯ノ口美祢線	(275) 島戸港線	(315) 吉部下萩線
(241) 秋吉台絵堂線	(276) 角島神田線	(316) 高佐下阿武線
(244) 下関川棚線	(277) 長門市停車場線	(317) 高佐下阿東線
(245) 永田郷室津川棚線	(280) 長門秋芳線	(319) 大河内地吉線
(246) 長府前田線	(281) 俵山長門古市停車場線	(320) 塩田中山線
(247) 安岡港長府線	(282) 仙崎停車場小浜線	(321) 和田上村線
(248) 下関港垢田線	(283) 青海島線	(323) 下関停車場線

一般県道路線名		
(324) 綾木秋吉線	(339) 東吉部秋吉線	(354) 妻崎開作小野田線
(325) 宇津弘子本村線	(341) 大嶺於福線	(355) 奥万倉厚狭線
(327) 狗留孫山公園線	(342) 琴芝際波線	(356) 久津小田線
(328) 福井上蔵目喜線	(343) 宇田須佐線	(357) 油谷港線
(330) 祝島線	(344) 吉部下篠目線	(358) 人丸停車場線
(332) 十種ヶ峰線	(346) 光井島田線	(359) 大下日南瀬線
(333) 奥秋吉台公園線	(347) 下松新南陽線	(360) 笹尾筏場線
(334) 引谷篠目線	(348) 大内右田線	(361) 錦鹿野線
(335) 江崎陶線	(349) 江汐公園線	(362) 白木漁港佐連線
(336) 東厚保大嶺線	(351) 油田港線	(366) 徳山下松線
(337) 田万川須佐線	(352) 秋穂港線	(501) 山口秋吉台公園自転車道線
(338) 大海秋穂二島線	(353) 新山口停車場上郷線	(502) 山口防府自転車道線
		(503) 佐波川自転車道線

表 2 設計示方書一覧表

設計示方書			
道路構造に関する細則案（大正 15 年）			
鋼道路橋設計示方書案，鋼道路橋製作示方書案（昭和 14 年）			
電弧溶接道路橋設計及製作示方書案（昭和 15 年）			
木道路橋設計示方書案（昭和 15 年）			
鋼道路橋設計示方書（昭和 31 年）			
鋼道路橋設計示方書(改訂)（昭和 39 年）			
鋼道路橋製作示方書（昭和 31 年）			
鋼道路橋製作示方書(改訂)（昭和 39 年）			
溶接鋼道路橋示方書（昭和 32 年）			
溶接鋼道路橋示方書(改訂)（昭和 39 年）			
鋼道路橋の合成桁設計施工指針（昭和 34 年）			
鋼道路橋の合成桁設計施工指針(改訂)（昭和 40 年）			
鉄筋コンクリート道路橋設計示方書（昭和 39 年）			
道路橋下部構造設計指針「くい基礎の設計編」（昭和 39 年）			
道路橋下部構造設計指針「くい基礎の設計編(改訂)」（昭和 51 年）			
道路橋下部構造設計指針「調査及び設計一般編」（昭和 41 年）			
道路橋下部構造設計指針「橋台，橋脚の設計編」（昭和 43 年）			
道路橋下部構造設計指針「直接基礎の設計編」（昭和 43 年）			
道路橋下部構造設計指針「くい基礎の施工編」（昭和 43 年）			
道路橋下部構造設計指針「ケーソン基礎の設計編」（昭和 45 年）			
道路橋下部構造設計指針「場所打ぐいの設計施工指針」（昭和 48 年）			
道路橋下部構造設計指針「ケーソン基礎の施工編」（昭和 52 年）			
道路橋耐震設計指針（昭和 46 年）			
道路橋示方書	I	共通編	II 鋼橋編（昭和 47 年）
道路橋示方書	I	共通編	II 鋼橋編(改定)（昭和 55 年）
道路橋示方書	I	共通編	III コンクリート橋編（昭和 53 年）

道路橋示方書	I	共通編	IV	下部構造編	(昭和 55 年)
道路橋示方書	V	耐震設計編			(昭和 55 年)
道路橋示方書	I	共通編	II	鋼橋編	(平成 2 年)
道路橋示方書	I	共通編	III	コンクリート橋編	(平成 2 年)
道路橋示方書	I	共通編	IV	下部構造編	(平成 2 年)
道路橋示方書	V	耐震設計編			(平成 2 年)
道路橋示方書	I	共通編	II	鋼橋編	(平成 6 年)
道路橋示方書	I	共通編	III	コンクリート橋編	(平成 6 年)
道路橋示方書	I	共通編	IV	下部構造編	(平成 6 年)
道路橋示方書	I	共通編	II	鋼橋編	(平成 8 年)
道路橋示方書	I	共通編	III	コンクリート編	(平成 8 年)
道路橋示方書	I	共通編	IV	下部構造編	(平成 8 年)
道路橋示方書	V	耐震設計編			(平成 8 年)
道路橋示方書	I	共通編	II	鋼橋編	(平成 14 年)
道路橋示方書	I	共通編	III	コンクリート編	(平成 14 年)
道路橋示方書	I	共通編	IV	下部構造編	(平成 14 年)
道路橋示方書	V	耐震設計編			(平成 14 年)
鉄筋コンクリート標準示方書 (昭和 6 年)					
鉄筋コンクリート標準示方書 (昭和 11 年)					
鉄筋コンクリート標準示方書 (昭和 15 年)					
無筋コンクリート標準示方書 (昭和 18 年)					
コンクリート標準示方書 (昭和 31 年)					
プレストレストコンクリート設計施工指針 (昭和 30 年)					
プレストレストコンクリート設計施工指針 (昭和 36 年)					
プレストレストコンクリート道路橋示方書 (昭和 43 年)					
「兵庫県南部地震により被災した道路橋の復旧に係る仕様」の準用に関する参考資料 (案) (平成 7 年)					
鋼道路橋の一方鉄筋コンクリート床版の配力鉄筋設計要領 (通達) (昭和 42 年)					
鋼道路橋の床版設計に関する暫定基準案 (通達) (昭和 43 年)					
鋼道路橋の鉄筋コンクリート床版の設計について (通達) (昭和 46 年)					

道路橋塩害対策指針（案）（昭和 59 年）

鋼管矢板基礎設計指針（昭和 59 年）

特定路線にかかる橋，高架の道路等の技術基準について（通達）（昭和 48 年）

道路橋鉄筋コンクリート床版の設計、施工について（通達）（昭和 53 年）

小規模吊橋指針（昭和 59 年）

その他示方書類

適用示方書類によらないで設計又は試行されたものについて